社会福祉法人　西鳳会

「持ち上げない介護」への挑戦

～ノーリフティングケアとICT活用による現場改革～



1. なぜ生産性向上の取り組みを始めたのか

◆「人の力だけに頼る介護」に限界

- 平均介護度4.1～4.2の重度利用者が中心
- 持ち上げ介助による腰痛が常態化
- 夜間の過剰訪室による身体的・精神的負担
- ICT機器が十分活用されていない
- 離職につながる不安



「このままでは、ご利用者・職員双方が苦しくなる」

2. 西鳳会が目指した介護

◆「必要な時に、必要なケアを」

- ノーリフティングケア（持ち上げない介護）
- 状態を見て判断する夜間ケア
- 利用者の尊厳と安全を守る
- 職員の身体を守る
- 「直接ケア時間」を増やす



※　写真・イラストはイメージです

「楽をする介護」ではなく、「専門性を高める介護」

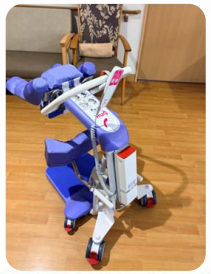
3. ノーリフティングケアの導入（1）

◆「持ち上げない介護」への転換

導入機器

① Hug（移乗サポートロボット 生活用・入浴用）
② つるべー（移動式リフト）
③ アーチパートナー（据置式リフト）
④ スライディングシート、スライディングボード、介助グローブ（介護技術）

① Hug
（移乗サポートロボット 生活用・入浴用）

抱え上げない移乗をサポートする
移乗サポートロボット

② つるべー
（移動式リフト）




ベッドから車椅子などへの
移乗をサポート

③ アーチパートナー
（据置式リフト）



安定した設置型リフトで
安全な移乗を実現

④ スライディングシート、スライディングボード、介助グローブ
（介護技術）




摩擦を軽減し、少ない力で安全に
移乗・体位変換をサポート

「持ち上げない介護」で、利用者の安全と職員の身体を守ります

3. ノーリフティングケアの導入（２）

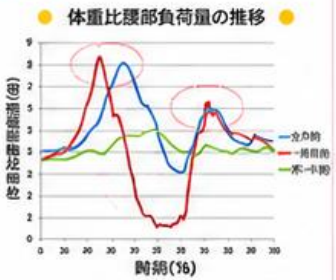
◆「持ち上げない介護」の定着研修の開催

5カ月間の継続研修（全て受講必須研修として位置づけ）

1. ノーリフティングケアとは
2. スライディングボード
3. スライディングシート
4. 介助グローブ
5. 移動式リフト
6. Hug
7. ポジショニング
8. シーティング



① ノーリフティングケアとは



データで現状を知り、
理論と必要性を学ぶ

② スライディングボード



少ない力で安全に
移乗するための基本技術

③ スライディングシート



摩擦を軽減し、負担を
最小限にする技術

④ 介助グローブ



摩擦を軽減し、
安定した体位変換を支援

⑤ 移動式リフト



持ち上げない安全な
移乗を実現

⑥ Hug



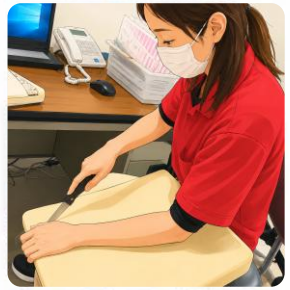
持ち上げない移乗を
サポートするロボット

⑦ ポジショニング



快適で安定した姿勢を保ち、
負担とリスクを軽減

⑧ シーティング



個々に合わせた座位保持で
自立と安全を支援

継続した研修で、「持ち上げない介護」を現場に定着

4. 眠りSCANとICT活用（１）

◆「訪室の質」を変える

導入前

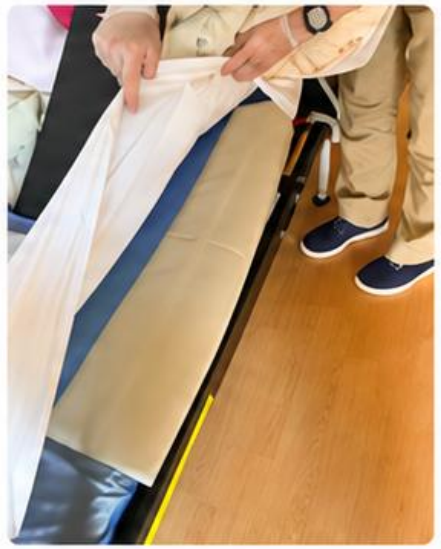
❶ センサーコール（床・体動・赤外線）が鳴るたび訪室

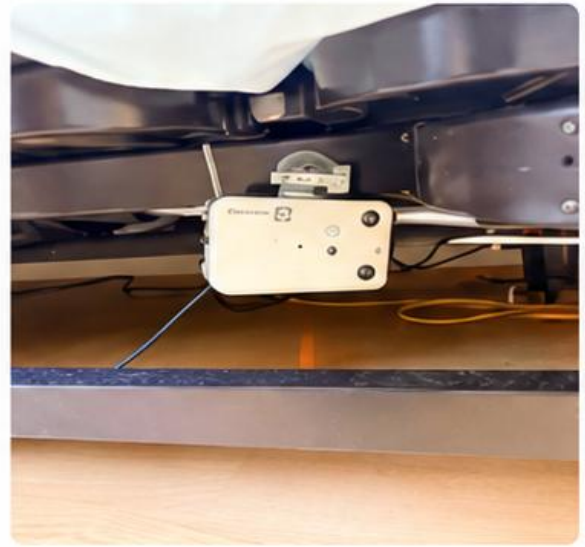
❷ 定時巡回中心

❸ 夜間帯歩数　平均約9,300歩（勤務17時～翌朝10時）

❹ 夜勤職員の身体的・精神的負担増大







4. 眠りSCANとICT活用（2）

◆「訪室の質」を変える

導入後

❶ 眠りSCANによる睡眠状態把握

❷ 状態を確認して訪室

❸ 必要時訪室への転換

❹ 介護記録ソフトほのぼのとの連携活用（自動記録）









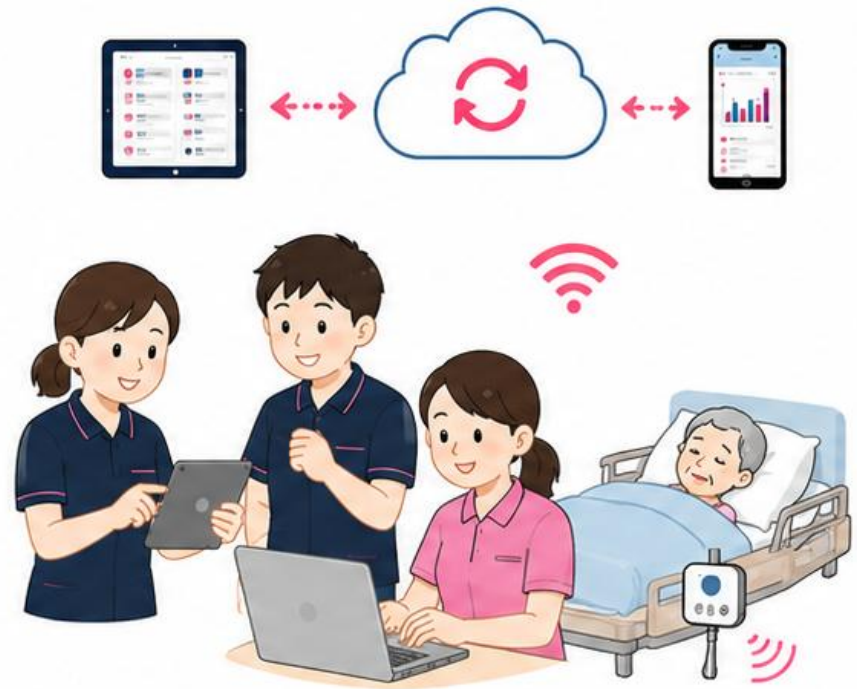
4. 眠りSCANとICT活用（3）

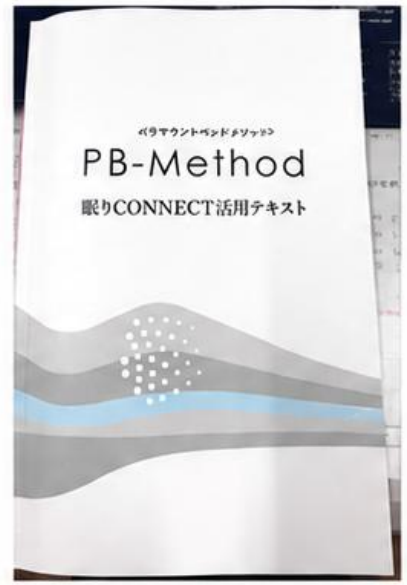
◆ 現時点の課題

- 活用方法のばらつき
- iPhone、iPad整備が未完了
- さらなる職員教育が必要

◆ 今後の取り組み

- 各ユニットへのiPad導入
- 情報共有の即時化
- 夜間ケア精度向上（睡眠アセスメント）
- 眠りSCAN活用の標準化





※　写真・イラストはイメージです

「訪室を減らす」のではなく、「必要な時に必要なケアを行う」

5. 現場で感じた課題

◆「導入すれば解決」ではなかった

- 機器への不安
- 設定や運用の難しさ
- 一時的に訪室が増えた時期も
- 介護方法を変える難しさ
- 現在も試行錯誤を継続中



※　写真・イラストはイメージです

「機器導入」だけでは、現場は変わらなかった

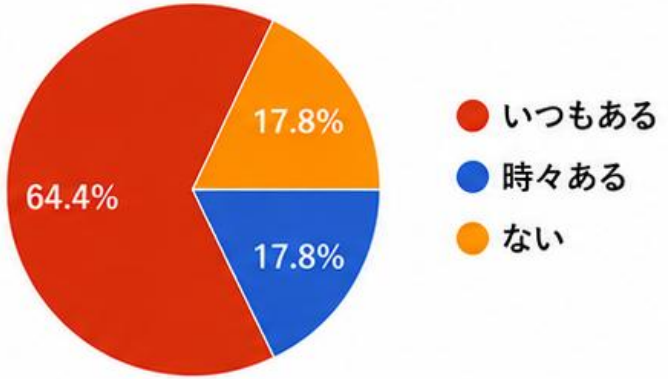
6. 現場に起きた変化

◆ 少しずつ変わり始めた現場（アンケート調査実施）

腰痛あり職員割合

導入前 **94%** → 導入後 **82%**

腰痛の有無
45件の回答



◆ その他の変化

1 移乗時の身体負担軽減



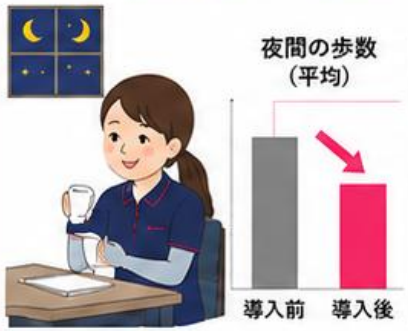
リフトや福祉用具の活用により、移乗介助時の腰や肩への負担が軽減

2 利用者の安心感向上



「安心して任せられる」との声が増え、信頼関係がより深まった

3 夜勤明け疲労感の軽減



夜勤後の身体の重さや疲労感が軽くなったと実感する職員が増えてきた

4 「持ち上げない介護」への意識変化



職員同士で声をかけ合い、持ち上げないケアが定着しつつある

※　写真・イラストはイメージです

少しずつ、“持ち上げない介護”が現場に定着

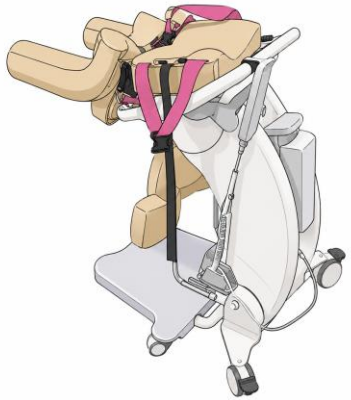
7. 本日の見学・体験会

◆ ぜひ現場をご体験ください

・本日の体験内容・

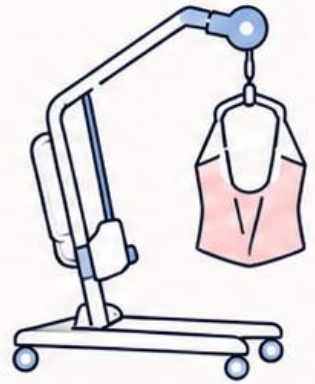
1 移乗サポートロボット
（生活支援・移乗支援）

持ち上げない移乗をサポートする
ロボットを体験できます。
職員・利用者双方の負担軽減に
つながります。



2 移動式リフト
（スムーズな移乗を支援）

ベッドから車いすなどへの移乗を
安全・スムーズに行える
移動式リフトを体験できます。



3 介護技術支援ツール
（負担軽減を支える介護技術）

スライディングシート、介助グローブ、
ポジショニングなどの介護技術を
体験できます。
身体の負担を減らし、安全・安心な
ケアの実践につながります。


スライディング
シート


介助
グローブ


ポジショニング
クッションなど

4 見守り・睡眠支援システム
（見守り・睡眠の可視化）

利用者の睡眠・覚醒状態や動きを
見える化し、離床・在床の把握や
ケアの質向上を支援する
システムを体験できます。



※　写真・イラストはイメージです

8. 本日の実演紹介

◆ ぜひ業務改善をご覧ください

● 本日の実演内容 ●

5 **AI議事録支援アプリ「noman」**
（居宅介護支援・施設ケアマネジャー業務支援）

居宅介護支援事業所および施設ケアマネジャーを対象に導入した
AI議事録支援アプリ「noman」の実演を行います。

会議・担当者会議等の記録作成支援により、
記録業務の効率化と業務負担軽減につながります。

※ 本内容は石川県生産性向上モデル事業の対象外です。
※ 当法人独自の業務改善取組として導入しております。



※　写真・イラストはイメージです

8. 本日の実演紹介

◆ ぜひ業務改善をご覧ください

• 現時点の導入実績 •

5 AI議事録支援アプリ「noman」導入実績

（居宅介護支援・施設ケアマネジャー業務支援）

居宅介護支援事業所および施設ケアマネジャーを対象に導入した
AI議事録支援アプリ「noman」の現時点実績をご紹介します。

会議・担当者会議等の記録作成支援により、
記録業務の効率化と業務負担軽減につながっています。



※　写真・イラストはイメージです

現時点の法人内実績　（正社員ケアマネジャー4名）

記録作成時間の短縮

• 担会録・議事録	約45分	→	約10分弱
• 訪問記録	約15分	→	約5分
• モニタリング記録	約15分	→	約5分
• カンファレンス記録	約1時間	→	約10分

時間外勤務の削減

平均約40時間 → 約10時間へ削減

現場で感じている変化

- 記録業務負担の軽減
- 利用者対応時間の確保
- 情報共有の迅速化
- 心理的負担軽減

※現時点の法人内実績です　※記録内容・ケース状況等により変動があります
※当法人独自の業務改善取組として導入しています

記録業務の効率化により、“人に向き合う時間”の確保へ

9. 最後に

◆ 介護を進化させる現場へ

- 今回の取り組みは、まだ途中段階です
- 現在も試行錯誤を続けています
- 機械導入が目的ではありません
- 介護の専門性を高める取り組みです
- 今後も改善を継続してまいります



※　写真・イラストはイメージです

「現場の意識は、少しずつ変わり始めています」

本日はお越しいただき
誠にありがとうございました

介護の専門性向上と、安全・安心なケアの実現に向け、
今後も取り組みを継続してまいります。

特別養護老人ホーム
さくらセンター
SAKURA CENTER